

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見直し

※各マーケットコメントは1月31日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		1月30日現在 (矢印は12月末比)	2月の予想	
USD	ドル・円 (円)	↘ 130.39	↗ 125.00 ~	140.00
	日米中銀の今後の方向性を探る時間帯			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.085	↗ 1.00 ~	1.15
	ユーロ・円 (円)	↗ 141.52	↗ 135.00 ~	150.00
景況観持ち直しとECBタカ派継続で底堅いが先行き警戒は続く				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.235	↘ 1.20 ~	1.30
	ポンド・円 (円)	↗ 161.08	↘ 150.00 ~	165.00
前回票が割れたBOEの票決に注目				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 92.10	↗ 90.00 ~	95.00
	NZドル・円 (円)	↗ 84.36	↗ 81.50 ~	85.50
中国正常化でオセアニア通貨は底堅く推移				
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 27,433	↘ 25,500 ~	28,000
	米国株につれて底堅いものの日銀の政策修正観測等が上値を抑制			
	NYダウ (ドル)	↗ 33,717	↗ 33,000 ~	35,500
	悲観後退からレンジ切り上げも景気は下方局面で上値は限定的			
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.475	↘ 0.35 ~	0.55
	日銀総裁人事で今後の方向性を探る			
	米国 (%)	↘ 3.537	↗ 3.00 ~	4.00
	FRBの利上げ完了を見極め、現状の織り込み修正から金利上昇			

◆ 今月の注目ポイント

FRBは利上げ幅縮小へ、次回への示唆があるか注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	○	【米景気・物価・雇用】 月初のISM景気指数では特にサービス業指数に注目。前月は50割れの水準に落ち込み景気懸念が生じる場面もあったが、今回上昇した場合には景気楽観の見方からリスク資産にはポジティブな展開。FRBの金融政策にスポットが当たる中で雇用統計・CPIの結果からインフレと労働需給の動向を読み解く。
金融政策	◎	【FRB/ECB】 2/1のFOMCではインフレ下振れ等を受けて利上げ幅が0.25%に縮小される見直し。高い政策金利維持の必要性は示す一方で、次回3月会合で利上げ継続について示唆があるか注目される。2/2のECB理事会では高インフレへの警戒から0.50%の利上げが実施される見直し。直近のラガルド総裁をはじめECB高官の発言からも更なる利上げスタンスが示されるとみられる。 【日銀総裁人事】 岸田首相は2月中にも日銀総裁人事を国会に提示する方針を示す。タカ派的な主張を行う総裁となった場合には政策修正観測の高まりから円資産への影響は大きい。

◆ アジア通貨見直し

人民元・円	↗ 18.70 ~	19.70	ルピー・円	↗ 1.55 ~	1.65
バーツ・円	↗ 3.85 ~	4.05	ウォン・円	↗ 10.30 ~	10.90
ルピア・円	↗ 0.84 ~	0.89			

◆ 今月の重要日程

1日(水) 欧	1月CPI	3日(金) 米	1月非ISM製造業
1日(水) 米	1月ISM製造業	14日(火) 米	1月CPI
1日(水) 米	FOMC(結果発表)	15日(水) 米	1月小売売上高
2日(木) 英	BOE金融政策委員会	21日(火) 欧	2月PMI
2日(木) 欧	ECB理事会(結果発表)	22日(水) 米	FOMC議事録(1/31、2/1分)
3日(金) 米	1月雇用統計	24日(金) 日	1月CPI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

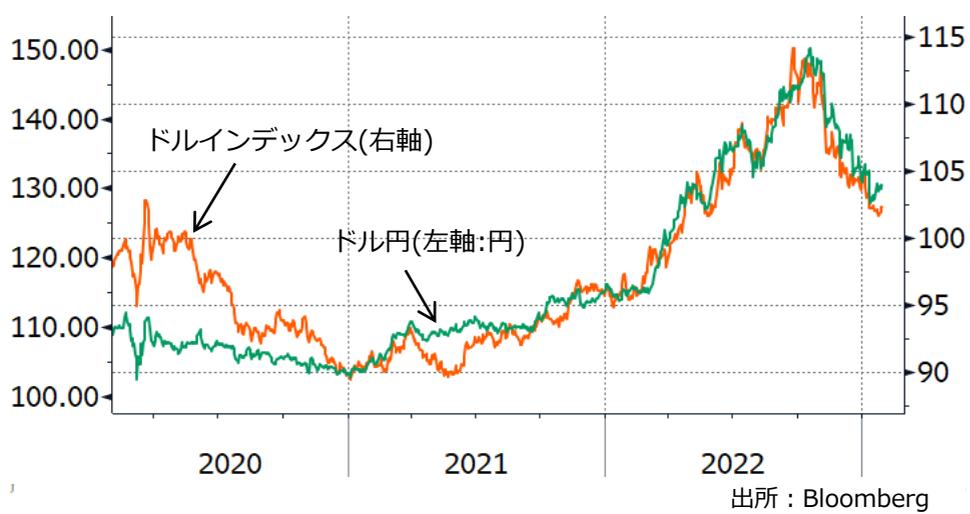
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円	ドル円は上昇	125.00 - 140.00円
------	--------	------------------

日米中銀の今後の方向性を探る時間帯

1月のドル円市場は130円を挟んで値動きの大きい相場となった。米国側では景気後退とFRBの利上げ幅縮小が意識されUSD安材料となる一方、日本では物価上昇と日銀政策変更観測がJPY高材料となりドル円は上値の重さが意識された。ただしそれぞれに揺り戻しもあり、上下に値幅が拡大した。注目の日銀会合では政策据え置きと資金供給拡充が発表されJPY安材料となった。昨年は米国の物価上昇とFRBの利上げが最重要ファクターであったが、日銀の政策変更が要素として加わったことで、ドル円の相場環境は複雑性を増している。引き続き値動きの荒い展開に注意が必要だろう。特に今年国会に提出される日銀総裁人事は今後の日銀の動向や政府の意向を測るうえで重要。足元の国債市場の混乱に対する見方としても注目したい。ただし、少なくとも今年度中の政策再修正は可能性として低くなっており、一旦JPY高要因は一服と見る。

FRBは+0.25%への利上げ幅縮小が見込まれ、一部では3月利上げなしの可能性も織り込まれつつあるが、今回はドットチャート (FRBメンバーの利上げ見通し) の更新がなく、FRBのメッセージと市場の期待との乖離が拡大している。現状、インフレ鈍化が十分ではなく、ハト派転換を明確にするのは時期尚早である。今月は日米双方の材料からドル円は上昇と見る。

ユ ー ロ



ユーロドル	ユーロドルは上昇	1.00 - 1.15ドル
ユーロ円	ユーロ円は上昇	135.00 - 150.00円

景況観持ち直しとECBタカ派継続で底堅いも先行き警戒は続く

1月のEUR相場は日銀の政策変更を巡る思惑の影響を受け、対JPYでは上下動したものの、対USDでは右肩上がりに底堅く推移した。今冬は記録的な暖冬となり、かねてから欧州経済の足かせとして意識されていたエネルギー問題は深刻化せず、ドイツを中心に下落していた景況感も改善の兆しが見えている。一方、ユーロ圏のインフレ率は食品・エネルギーを除くコア指数も上昇傾向が強まっている。景況感の改善とインフレ定着懸念から、ECBは当面利上げ路線を継続すると見ており、利上げ縮小・停止議論が控えるFRBとの対比では、タカ派姿勢が意識されるだろう。また、日銀の政策修正期待・日本の金利上昇圧力も一旦一服すると見ており、EURは底堅い動きを見込む。

他方で、ユーロ圏加盟国ではフランスのように原発稼働によりインフレ率が相対的に抑制されている国から、リトアニアのように前年比+20%を超えている国までである。12月理事会は全会一致ではなかったことが明言されており、政策運営は難しさを増していることは事実だろう。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

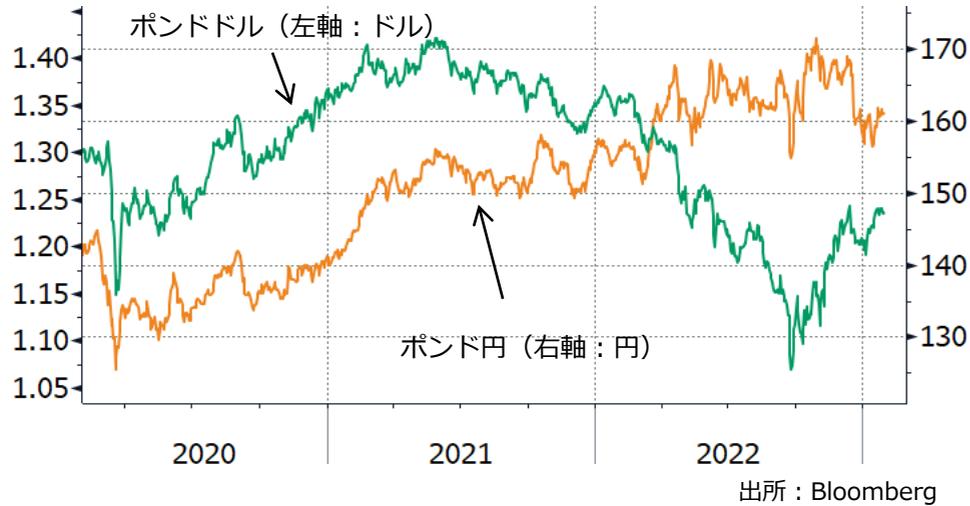
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



ポンドドル	ポンドドルは下落	1.20- 1.30ドル
ポンド円	ポンド円は下落	150.00 - 165.00円

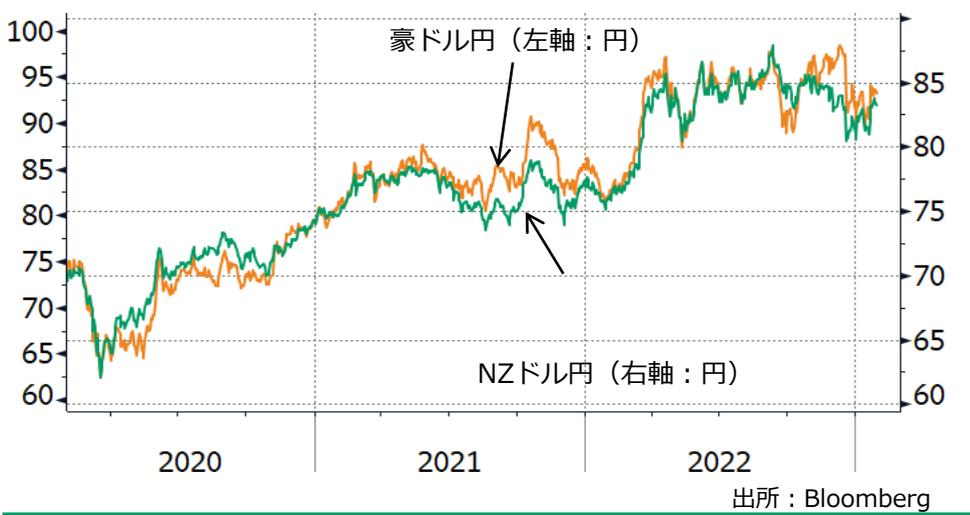
前回票が割れたBOEの票決に注目

12月のGBP相場は対USD、対JPYでいずれも上昇した。米国の経済指標の下振れが続き、米国の景気後退懸念からUSD安基調であったことや、日銀の政策修正観測が後退したことで、対USD、対JPYいずれに対しても底堅く推移した。

BOEは今月の会合で0.50%の利上げが見込まれるが、前回の決定では+0.00% (利上げなし) ~+0.75%まで票が割れる波乱含みの展開となっており、政策決定の不透明感FRBやECB以上に強い。英国でもインフレはやや鈍化し始めているが、水準としては依然として高く、インフレ抑制が最重要課題である点は変わらない。また、また景況感も一段と悪化の兆しがあり、ユーロ圏が持ち直し基調にあることは対照的。

2月は日銀会合はなく月初のFOMCでは利上げ幅減速が織り込み済みで、FRBが明確にハト派的なメッセージを出さない限りは、USD反騰・GBP反落となる可能性を見込む。対JPYでは日銀総裁人事が最注目であり、関連日程で変動率の上昇に注意が必要だろう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は上昇	90.00 - 95.00円
NZドル円	NZドル円は上昇	81.50 - 85.50円

中国正常化でオセアニア通貨は底堅く推移

1月の豪ドル、NZドル市場は対USD、対JPYでも底堅く推移した。中国経済の正常化が進み、経済的な繋がりの深いオセアニア通貨の追い風となるほか、それに合わせてコモディティ価格が上昇していることも、資源国通貨として好感されている。また、米景気後退懸念とFRBの利上げ幅減速期待からUSDが軟調であったことに加え、日銀が決定会合で政策を据え置き、早期の政策修正観測が後退したことも下支えとなった。

懸念されていた中国の感染拡大は一服しつつあり、中国経済は今後も正常化を進めるものと考えられる。一方、米国の景気後退はグローバル不況へと発展する可能性もあり、コモディティ価格の下落やリスクオフムードの高まりによってオセアニア通貨の逆風へと繋がる可能性もある。当面は相対的に高止まりしているインフレ率への対応から中銀がタカ派姿勢を継続し、オセアニア通貨は底堅い推移を予想するが、外部環境の変化に影響を受けやすいため、注意は必要だろう。対JPYでは日銀総裁人事に絡んで変動率が高まりやすい。

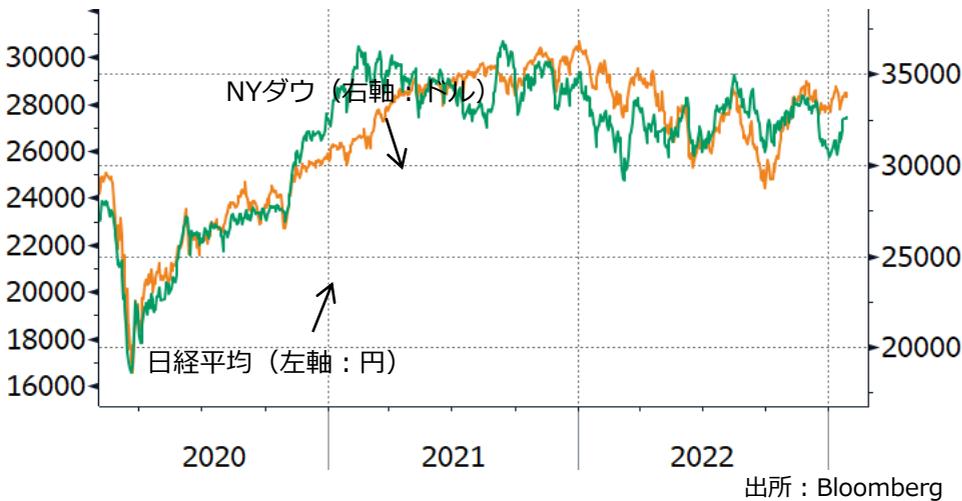
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



日経平均



日経平均は下落

25,500 - 28,000円

米国株につれて底堅さはみせるも日銀の政策修正観測等が上値を抑制

グローバル経済の悲観後退する中で米国株の動きにつれて底堅く推移するとみるが、以下要因から日本株は下落と予想。①今月中にも判明する日銀総裁人事、国内インフレ率の上振れによる日銀の金融政策修正観測が上値を抑制。②半導体産業では生産が調整局面にある中で関連産業で来年度業績見通しが意識される局面も生じるとみられる。③海外経済が減速基調にあるなかで外需の伸び悩みが意識されやすい。

NYダウ



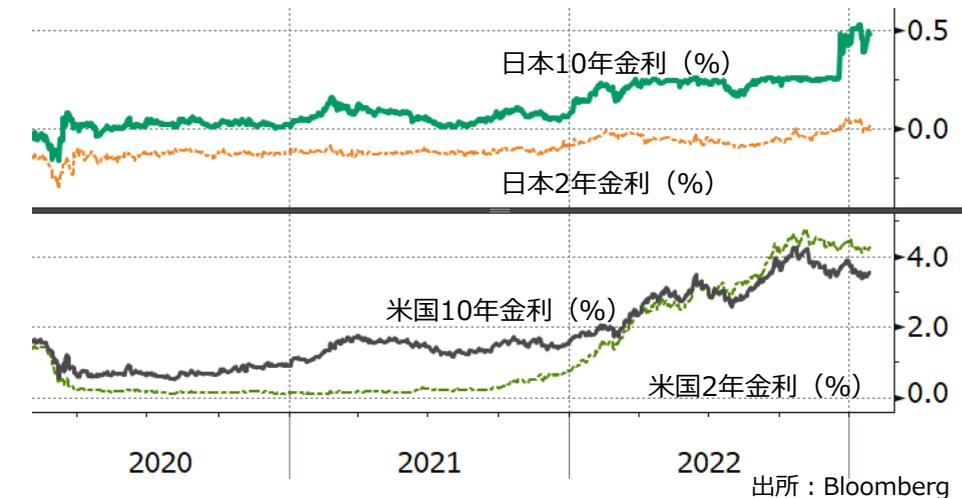
ダウは上昇

33,000 - 35,500ドル

悲観後退からレンジ切り上げも景気は下方局面で上値は限定的

エネルギー価格の下落や供給制約緩和によるインフレ懸念の落ち着きから、景気悪化への悲観が後退するなかでNYダウは上昇基調にある。月初のFOMCがタカ派的な内容となると下げる局面もあろうが、その後はレンジを切り上げる動きを予想。ただしグローバル経済は下方局面のなかでの過度な悲観後退にすぎず、1-3月期の米国経済はマイナス成長となる可能性も相応にある。高値圏では戻り売りも出るとみられ一方向の上昇とはなりづらい。

長期金利見通し



日本国債10年



金利は低下

0.35 - 0.55%

日銀総裁人事で今後の方向性を探る

1月の日本国債市場は稀にみる乱高下となった。日銀会合で12月に続く政策修正期待が高まるなか、YCC許容上限である0.50%を上回る時間帯が続いたが、政策据え置きと共通担保オペの拡充が発表されるとハト派サプライズとなり、一時0.40%割れまで低下した。引き続き政策修正観測は根強く流動性は更に低下しているため、荒い値動きが予想される。2月中にも日銀正副総裁人事が国会提出される予定であり、人選から政権の意向を読み取る必要がある。

米国債10年



金利は上昇

3.00 - 4.00%

FRBの利上げ完了を見極め

1月の米長期金利は緩やかに低下した。米国の経済指標の下振れが目立ち、景気後退の蓋然性が高まる一方、インフレ関連指標もピークアウトが明確となっており、FRBのハト派転換期待が高まっている。2月のFOMCでは12月に続く利上げ幅の縮小(0.50%→0.25%)が見込まれるうえ、3月に利上げなしという展開も一部で織り込まれ始めている。当面、金利は上昇しにくい地合いではあるが、現状の織り込みはやや行き過ぎであり、3月利上げに向けて金利上昇を予想。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		1/30		1月の相場推移		2月の予想		解説
中国	人民元/円	19.30	↗	18.75~19.62	↗	18.70~19.70		春節前の外貨決済フローや経済回復を見据えた中国株買いで1月のドル人民元は下落した。急速な感染拡大と収束により、中国経済は想定より早い段階で回復軌道に入る可能性が高まっている。景況感改善とともに中国金利が上昇すると、人民元のサポートとなる。ただし、内需回復により輸入額が増加に伴う外貨購入需要も生じることで小幅な元高（ドル人民元下落）に留まるとみる。
	ドル/人民元	6.757	↘	6.70~6.94	↘	6.65~6.85		
タイ	バーツ/円	3.978	↗	3.77~3.999	↗	3.85~4.05		1月のドルバーツ相場はドル安に加え、中国をはじめとする海外観光客の回復で大幅下落。今月のバーツも堅調に推移するとみる。観光客を積極的に受け入れる姿勢で一層の観光客殺到が予想される。それに伴い、バーツ購入フローが起りやすい。また、主要産業である観光業の回復でタイのインフレ圧力になりうるので、タイ中銀の利上げ継続材料となるだろう。
	ドル/バーツ	32.71	↘	32.57~35.00	↘	31.5~33.5		
インドネシア	100ルピア/円	0.871	↗	0.831~0.880	↗	0.84~0.89		ルピアは他のアジア通貨対比で見劣りしていたが、1月は輸出企業の外貨収益に対する預金義務づけの措置発表等から買われた。今月はFRBのタカ派姿勢が想定される一方、1月会合でインドネシア中銀が利上げ打ち止めを示唆しており金融政策スタンス格差はルピアに不利となる。ただし、前述の措置から更なる外貨流出は想定しづらく、ドルルピアはもみ合う展開となりやすいだろう。
	ドル/ルピア	14,970	↘	14,884~15,683	↘	14,850~15,150		
インド	ルピー/円	1.598	↘	1.57~1.63	↗	1.55~1.65		ドル安が続く中、1月のルピーは対ドルで上昇した。2月にインド中銀会合では利下げが見込まれているが、直近インフレの緩和からインド中銀の利上げサイクルが終了するとの見方が広がる。欧米経済の減速で、貿易赤字の改善は想定しづらい。ただし、グローバルサプライチェーンの見直しの流れでは、インドへの直接投資が増加する可能性が高い。現水準近辺でドルルピーは推移するだろう。
	ドル/ルピー	81.50	↗	80.88~82.94	↗	81.20~83.20		
韓国	100ウォン/円	10.628	↗	10.18~10.67	↗	10.30~10.90		1月はドル安基調のなか、中国経済回復が好感され、ドルウォンは一段下落となった。防疫措置をめぐる摩擦で中国観光客増加の恩恵を受けにくいものの、中国経済の早期回復で韓国の貿易収支改善が見込まれ、ウォンの好材料となる。一方、韓国中銀の利上げ停止への期待が強まり、ウォン高に一部巻き戻しが入る可能性がある。ドルウォンは小幅下落にとどまろう。
	ドル/ウォン	1,227	↘	1,227~1,281	↘	1,200~1,250		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

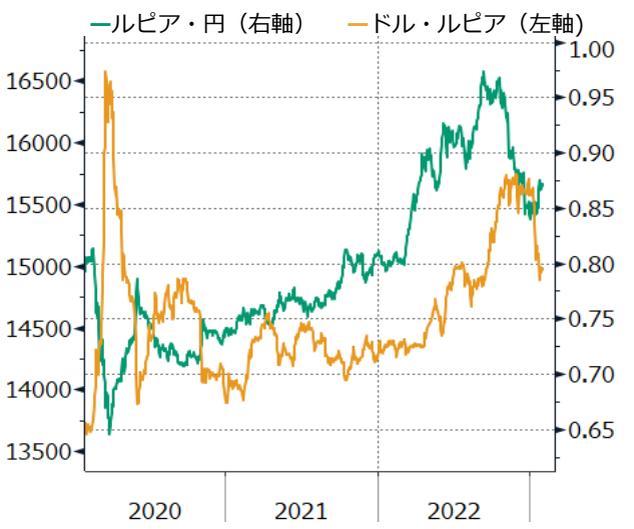
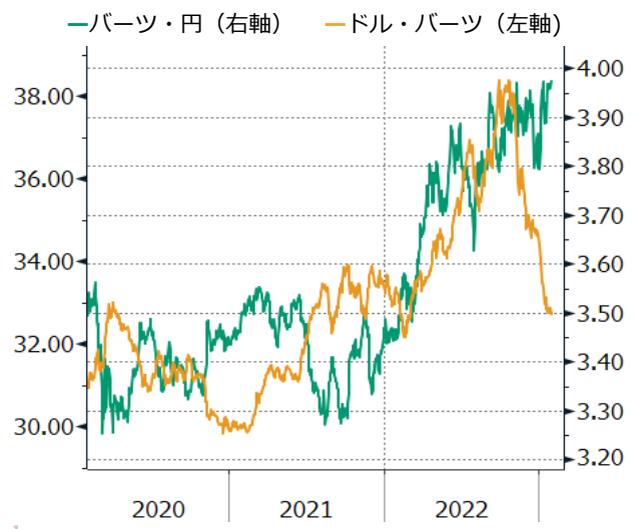
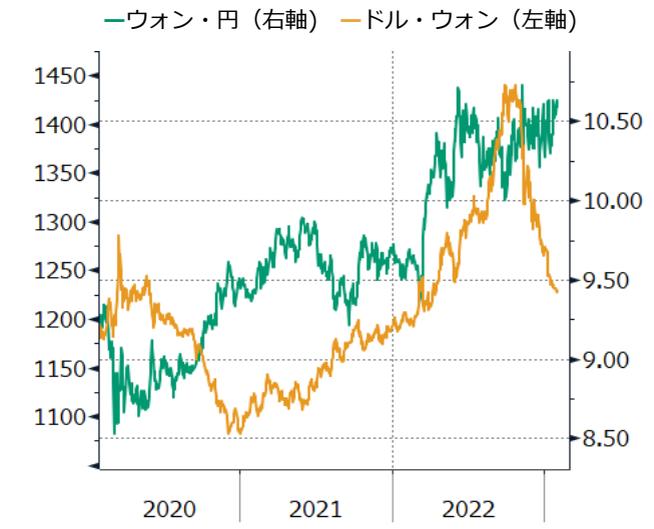
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

		2023年				ポイント
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
ドル円	レンジ	120~145	115~140	110~135	105~130	FRBは1-3月期に利上げ停止。利下げ転換と日銀政策修正織り込みで年後半に円高基調となる。
	期末値	130	125	120	120	
ユーロドル	レンジ	0.95~1.15	0.90~1.10	0.90~1.10	0.95~1.15	足元の景況感は改善が見られるが、先行きの懸念は残る。ECBは1-3月期に利上げを停止し、7-9月期から利下げに転じると予想。FRBとの利上げサイクルの違いから一旦上昇した後、反落を見込む。日銀政策修正期待で対JPYでは上値が抑えられる。
	期末値	1.10	1.05	1.00	1.05	
ユーロ円	レンジ	125~155	120~150	115~145	115~145	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。BOE内部でも見解の乖離が拡大しており、経済・金融政策の不透明感から、当面上値の重い展開を見込む。
	期末値	143	131	120	126	
ポンドドル	レンジ	1.10~1.30	1.05~1.25	1.00~1.20	1.00~1.20	景気回復を見込んだ中国資産への資金流入やFRB利上げ低下期待でドル安人民元高方向。年末に中国株高一期などから人民元高は一部巻き戻しが入る。
	期末値	1.20	1.15	1.10	1.10	
ポンド円	レンジ	140~170	130~160	120~150	120~150	中国の景気回復の恩恵を受け底堅く推移。インフレ率もやや高止まり傾向が見える。
	期末値	156	144	132	132	
ドル人民元	レンジ	6.60~6.90	6.50~6.80	6.40~6.70	6.50~6.80	旅行需要回復から当面底堅く推移。年後半は日銀政策修正織り込みや欧米経済停滞で対円下落を予想。
	期末値	6.70	6.60	6.50	6.60	
人民元円	レンジ	16.7~22.0	16.9~21.5	16.4~21.1	15.4~20.0	
	期末値	19.4	18.9	18.5	18.2	
豪ドル円	レンジ	90~110	85~105	90~110	95~115	
	期末値	98	94	102	102	
タイバーツ円	レンジ	3.70~4.20	3.70~4.30	3.60~4.20	3.50~4.10	
	期末値	4.00	4.10	4.00	4.00	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
2/1(水)		1月ADP雇用統計 1月ISM製造業景況指数 FOMC (結果発表)	(中) 1月製造業PMI
2/2(木)	10年債入札	12月製造業受注	(英) BOE金融政策委員会 (欧) ECB定例理事会
2/3(金)		1月ISM非製造業景況指数 1月雇用統計	
2/6(月)			
2/7(火)	12月家計調査 12月毎月勤労統計 (速報) 30年債入札	12月貿易収支 3年債入札	(豪) 準備銀行理事会
2/8(水)	1月景気ウォッチャー調査	10年債入札	
2/9(木)		30年債入札	
2/10(金)	1月企業物価指数		
2/11(土)	(建国記念日)		



	日本	米国	その他
2/13(月)			
2/14(火)	10-12月期GDP (一次速報値)	1月CPI	(欧) 10-12月期GDP (速報値)
2/15(水)		1月小売売上高 20年債入札 2月NY連銀製造業景況指数	
2/16(木)	12月機械受注 1月貿易統計 5年債入札	1月PPI 1月住宅着工・許可件数 2月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
2/17(金)			
2/20(月)		(大統領の日 (ワシントン誕生日))	
2/21(火)	20年債入札	1月中古住宅販売 2年債入札	(欧) 2月PMI (速報値) (独) 2月ZEW景況指数
2/22(水)		5年債入札 FOMC議事要旨	(独) 2月IFO企業景況感指数
2/23(木)	(天皇誕生日)	10-12月期GDP (改定値) 7年債入札	
2/24(金)	1月消費者物価指数	1月個人所得・消費支出 1月新築住宅販売	
2/27(月)			
2/28(火)	1月鉱工業生産 1月住宅着工件数 2年債入札		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

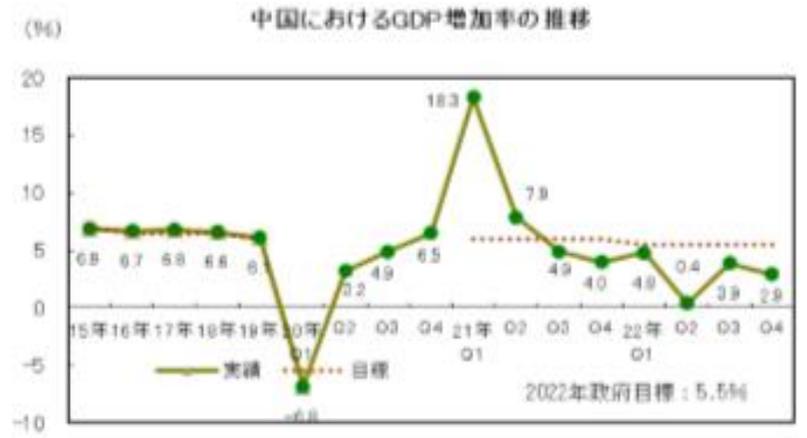
中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【12/30~1/5】

◎ 12月製造業購買担当者景況指数(PMI) 前月より1.0ポイント低下

中国国家统计局が12月31日発表した12月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は47.0と、前月から1.0ポイント低下した。2020年2月以来約3年ぶりの低水準で、新型コロナウイルスの感染急拡大に伴う経済活動の混乱が浮き彫りになった。PMIは50が節目となっており、下回った場合は景気の縮小局面を示す。50を割り込んだのは3カ月連続。PMIの構成5指数は3カ月連続ですべて節目割れ。生産は44.6、新規受注は43.9にそれぞれ急低下した。



【1/6~12】

◎ 12月のCPIは1.8%上昇、3カ月ぶり拡大

中国国家统计局が12日発表した2022年12月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比1.8%上昇した。上昇率は前月から0.2ポイント拡大。上昇率の拡大は3カ月ぶりとなった。食品価格は4.8%上がった。非食品価格は1.1%上昇、CPIを構成する8項目のうち7項目が上昇。また都市部と農村部ともに1.8%の上昇だった。変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア指数は0.7%上昇。前月から0.1ポイント拡大。22年の平均CPIは前年比2.0%上昇した。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/13~1/19】

◎ 住宅ローン金利、統計開始以来の最低

中国人民銀行（中央銀行）金融市場局の鄒局長は13日、昨年12月の新規住宅ローンの平均金利が4.26%となり、2008年に統計を開始して以来最も低い水準になったと発表した。前年同月からは1.37ポイント低下。人民銀は昨年、住宅ローン金利の目安となる貸出基礎金利（ローンプライムレート、LPR）の5年物以上を立て続けに引き下げた。現在の5年物以上の金利は4.3%で、1年で計0.35ポイントの引き下げを行った。人民銀が住宅需要の回復を目的に、金利低下を誘導していることが背景にある。

◎ 22年の対中投資 6.3%増の1.23兆元

中国商務省は18日、2022年の投資による直接投資（FDI）実行額が前年同期比6.3%増の1兆2,326億8,000万元（約23兆4,000億円）だったと発表した。伸び幅は1~11月（9.9%）から鈍化した。1億米ドル以上の大型案件は15.3%増え、FDI全体の53%を占めた。人民元ベースで見た産業別の投資額は製造業向けが46.1%の3,237億元。全体に占める割合は26.3%で、前年から7.8ポイント上がった。国・地域別では、韓国（64.2%増）、ドイツ（52.9%増）、イギリス（40.7%増）からの投資が目立った。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12
実質GDP成長率	%	-	4.8	-	-	0.4	-	-	3.9	-	-	2.9
消費者物価上昇率	%	0.9	1.5	2.1	2.1	2.5	2.7	2.5	2.8	2.1	1.6	1.8
都市部調査失業率	%	5.5	5.8	6.1	5.9	5.5	5.4	5.3	5.5	5.5	5.7	5.5
輸出額	10億ドル	216.7	275.0	272.4	306.4	328.2	332.3	315.0	321.7	298.1	295.2	306.1
輸入額	10億ドル	189.3	230.5	222.9	228.1	231.0	230.1	234.7	237.6	213.2	226.1	228.1
経常収支	100万ドル	-	88,875	-	-	166,373	-	-	310,707	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,213.8	3,188.0	3,119.7	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.34	6.35	6.44	6.71	6.70	6.73	6.80	7.02	7.21	7.17	6.98

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年2月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○春運が始まりました

1月7日「春運」は例年通り始まりました。今年は旧正月が早いので、春運も早く始まりました。みなさんは「春運」という言葉を知らないかもしれませんが、中国では春節（旧正月）連休の前後、大規模な帰省ラッシュが生じます。毎年の春節（旧正月）を境にして、春節前の15日間及び春節後の25日間、毎年の春運の期間は40日前後とされています。

今年春運の初日は630万人の旅客が鉄道を利用して出かけています。大学生の頃、冬休みはちょうど春運が始まる時期なのでいつもチケットを購入できるか心配していました。今は状況が大きく変わり、高速道路や高速鉄道などがたくさんでき、移動するにはいろんな選択肢があります。

最近のニュースによると、「春運」シーズン初のアイス・スノー観光列車が運行し始めたようです。同列車は原始の姿をとどめる極北地域アイス・スノーの旅をテーマに、6泊7日で運行し、ハルピン、漠河、海拉爾、扎蘭屯など人気のアイス・スノー観光地を巡ります。北国の景色を心ゆくまで味わい、文化や風習を理解する

この列車の旅は本当に魅力的ですね。

私もいつか乗ってみたいです。



○卵皮の餃子（蛋餃）

春節（中国のお正月）が近づいてきました。

スーパーやショッピングモールの店頭はウサギのぬいぐるみや春聯（しゅんれん、赤い紙に縁起の良い言葉を書いた縁起物）、また「福」文字の飾り物がいっぱい売られ、近所の人たちも正月用の食材や子供向けの新しい服を用意し始めました。

家では義理のお母さんも例年通り、卵皮の餃子を作り始めました。卵皮の餃子は上海の伝統的な食べ物で、よく春節の前に作ります。普通の餃子と違い、皮は卵で作られています。中身は豚肉或いは牛肉、椎茸などを入れてあります。この皮を作るにはテクニックが必要です。

ステップとしてはまず卵をよく混ぜ、次はガスコンロの火の上で、ステンレスの厚手のスプーンを使い、油が多くなならないようにブラシで軽くこすります。卵液を大さじ1杯加えてスプーンを軽く回し、まるい形の卵餃子の皮を作ります。次は具を入れて、丁寧に重ね、端を軽く固めてようやく卵餃子のできあがりです。

大晦日の夜、卵餃子、野菜などのスープを作り、家族と一緒に食べます。手作りの料理は手間がかかりますが、でもやはりその分美味しいですね。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ タイ中央銀行の2022年11月の経済報告によれば、国内経済が引き続き回復の途上にあるとの見方を示した。輸出は貿易相手国の経済減速を受けて悪化が続いているものの、観光業を中心としたサービス業の業況が改善した。民間消費指数は前年同月比7.2%上昇し、前月の一時的な悪化から持ち直した。特に、サービス業が23.0%増と全体を牽引した。他に、非耐久消費財、半耐久消費財、耐久消費財はいずれもプラス成長だった。民間投資指数は同0.9%下落した。機械・設備を中心とした資本財の輸入が10.0%減少した一方、建材の販売は6.8%上昇と、前月に続きプラスだった。鉱工業生産指数は同5.6%減と2カ月連続のマイナスになった。ハードディスク駆動装置 (HDD)、プラスチックペレット等の生産が減少したことが要因だった。一方、自動車、エアコン・同部品、プリント基板等の生産は増加した。

◆ タイ商務省によると、2022年11月の輸出額は前年同月比6.0%減の223億800万米ドルと、前年同月比で2カ月連続のマイナス成長だった。2022年1~11月の輸出額は前年同期

7.6%増の2,653億4,910万米ドルだった。世界的に景気が低迷していることや、中国での都市封鎖等の影響が背景にある。農産物・加工品の輸出は前年同月比2.0%減、主要工業製品は同5.1%減。減少した工業製品は化学製品 (同23.7%減)、プラスチック製品・粒 (同18.0%減)、ハードディスク駆動装置 (HDD) (同31.8%減)、建材 (同17.4%減) 等。一方、増加した工業製品は乗用車 (同5.7%増)、ピックアップトラック・バス・トラック (同13.0%増)、バイク (同28.1%増) 等。国別では、主要市場向けが前年同月比5.5%減少。うち米国向けの輸出額は同1.2%増の36億3,300万米ドルで最大。中国向けは同9.9%減の26億9,700万米ドル、日本向けは同4.6%減の20億2,400万米ドル。他に、欧州連合 (同0.4%増)、中東 (同13.8%増)、中南米 (同7.1%増) はそれぞれプラス成長だった一方、ASEAN (同9.5%減)、オーストラリア (同3.4%減)、アフリカ (同20.5%減) は落ち込んだ。11月の輸入額は前年同月比5.6%増の236億5,030万米ドルで、貿易収支は13億4,230万米ドルの赤字となった。11月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=36.38パーツで、前月の37.93パーツからパーツ高となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12
実質GDP成長率	%	-	2.3	-	-	2.5	-	-	4.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	5.3	5.7	4.7	7.1	7.7	7.6	7.9	6.4	6.0	5.6	5.9
失業率	%	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	-
輸出額	100万ドル	23,490	28,859	23,515	25,506	26,508	23,629	23,633	24,919	21,772	22,308	-
輸入額	100万ドル	23,235	26,851	25,026	27,121	27,681	27,290	27,848	25,772	22,369	23,650	-
経常収支	100万ドル	-943	1,102	-2,021	-2,926	-3,080	-4,045	-3,588	-56	562	-445	-
外貨準備高	10億ドル	245.1	242.4	228.6	230.0	222.3	220.0	215.0	199.4	201.9	210.7	216.6
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25
対ドル為替レート	パーツ	32.7	33.3	33.8	34.4	35.0	36.4	35.9	37.0	37.9	36.4	34.8

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



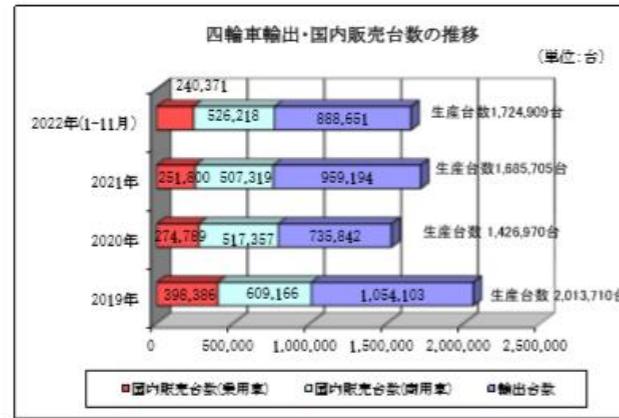
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年2月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

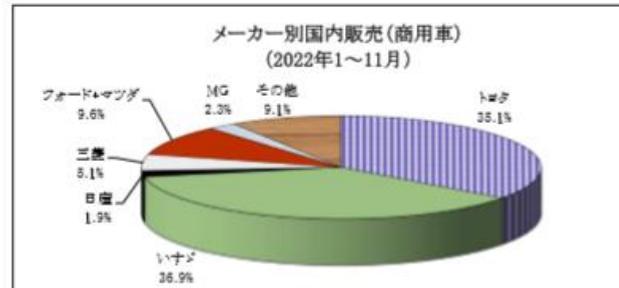
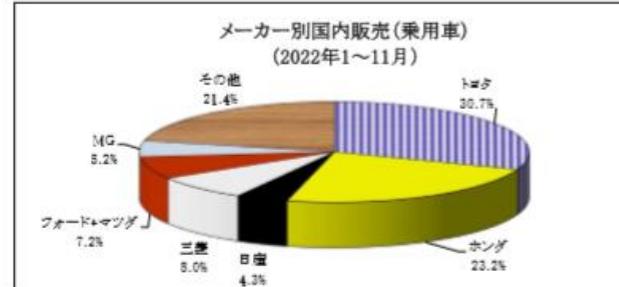
		2019年	2020年	2021年	2022年 (1-11月)	前年同期比 (%)	11月
【台数】	四輪	(台)					
		生産台数					
		乗用車	804,340	542,437	599,544	546,417	99.4
	商用車	1,209,370	854,533	1,095,861	1,175,492	120.0	120,285
	合計	2,013,710	1,426,970	1,695,405	1,724,909	112.6	190,155
	国内販売台数						
乗用車	398,386	274,789	281,800	240,371	109.3	20,263	
商用車	609,166	517,357	507,319	526,215	117.4	48,021	
合計	1,007,552	792,146	789,119	766,589	114.7	68,284	
輸出台数							
乗用車	1,054,103	735,842	989,194	888,651	103.6	87,979	
二輪							
生産台数	1,948,480	1,615,219	1,780,654	1,835,466	113.8	189,040	
国内販売台数	1,718,587	1,516,096	1,606,451	1,647,571	112.7	150,980	
輸出台数	948,839	727,152	968,967	942,880	107.1	89,707	
【完成車輸出金額】	(百万バーツ)						
四輪		545,968	410,912	561,147	553,354	110.6	56,072
二輪		69,933	85,802	73,985	66,615	94.7	6,596



【メーカー別国内販売台数】

出所:タイ自動車

		2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年 (1-11月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	11月
トヨタ	乗用車	117,705	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	73,797	134.0	30.7	5,405
	商用車	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	194,815	117.3	35.1	16,149
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	268,612	121.7	33.7	24,554
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	165,215	27.6	181,194	35.0	184,160	26.3	194,275	117.5	36.9	16,561
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	194,275	117.5	25.3	16,561
ホンダ	乗用車	96,134	24.1	77,419	25.2	76,936	30.5	55,879	82.0	23.2	4,438
	商用車	29,679	4.9	15,622	3.0	11,906	2.3	18,639	206.8	3.5	2,890
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,892	11.7	74,518	96.6	9.7	7,328
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	10,302	58.5	4.3	465
	商用車	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	10,055	118.5	1.9	1,139
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	20,357	78.0	2.7	1,604
三菱	乗用車	35,579	9.5	22,363	5.1	18,456	7.3	19,333	121.0	8.0	1,489
	商用車	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	26,545	105.5	5.1	1,980
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	46,181	111.5	6.0	3,469
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	81,060	128.4	33.8	5,466
	商用車	115,630	19.5	91,893	17.7	95,395	13.7	91,895	111.2	17.5	9,302
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	172,646	118.7	22.6	14,768
合計	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	281,800	100.0	240,371	109.3	100.0	20,263
	商用車	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	526,215	117.4	100.0	48,021
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	789,119	100.0	766,589	114.7	100.0	68,284



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。